

白神山地の麓から国産羊肉の生産拡大を目指す！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



宮の羊の牧場 (山本郡藤里町)

代表者 宮野 友美、牧場長 宮野 洋平

経営概況

経営形態 | めん羊牧場経営
飼育頭数 | 110 頭
施設等 | 畜舎1棟 放牧地 約5ha
労働力 | 夫婦2名
販売先 | 首都圏レストラン、食肉業者等



宮の羊の牧場

長年の夢であった羊の牧場経営を実現するため、令和3年4月に群馬県から藤里町に家族4人で移住し、友美さんは宮の羊の牧場の代表者として就農しました。本年は繁殖による羊の増頭や出荷を本格化し、夫婦二人三脚で白神山地の麓藤里の地から国産羊肉の生産拡大を目指し、着実に歩みを進めています。

▶ きっかけ

新潟県出身の友美さんと栃木県出身の洋平さんは、二人とも大の動物好きで、就職先の群馬県の観光牧場で知り合いました。二人の将来の夢が羊の牧場経営であったことから、友美さんは夢の実現のため北海道の牧場に転職し、洋平さんはニュージーランドへ渡り、1年間牧場経営のノウハウを学びました。



● 将来の夢を熱く楽しく語っていただきました。

帰国後、候補地を検討していたところ、藤里町の地域おこし協力隊（応募者による事業提案型）の募集を知り、洋平さんが採用されたことから令和3年4月に家族4人で藤里町に移住しました。洋平さんは地域おこし協力隊として活動を始め、友美さんは「宮の羊の牧場」の代表として、新規就農しました。

▶ 取組

友美さんは、就農1年目に同町の大野岱（おおのだい）放牧場の一画と、近隣の耕作放棄地を合わせて約5ha借受け、簡易畜舎を建設し42頭の羊を導入しました。2年目の昨年は秋田県の支援を受けて畜舎を新設し、現在は自家繁殖により約110頭に増頭しました。

成長の裏には、地域おこし協力隊の活動の傍ら、牧場長として経営を支える洋平さんとの二人三脚による羊の健康管理や、繁殖に優れた個体を見分ける観察力と綿密なデータ管理があります。



● 管理の行き届いた畜舎で餌を頬張る羊たち。

国産羊肉は大変貴重なため、首都圏のレストラン等からの引き合いも強く、今年は年間30頭の出荷を見込んでおり、近い将来は経営が安定する年間100頭の出荷を目指しています。

▶ これから

地元耕種農家と連携し、羊の排泄物を利用したたい肥を使用し、良質の米やとうもろこし等を生産してもらい、それらを給餌して羊を育てる100%秋田県産羊肉の生産拡大をしています。



● 耕作放棄地に春から秋まで放牧します。

また、羊肉以外で利用価値が高い羊毛やムートンの販路開拓のほか、観光牧場での経験を活かし、羊の毛刈り体験等のメニューを通じて、羊の



● 洋平さんは令和5年で毛刈り日本一3連覇を達成

素晴らしいさや、家畜としての魅力を多くの人に伝えたいと思っています。

（● 写真：宮の羊の牧場提供）

